

---

# 異界・天人録～目指せ！ 楽園天国？～

紺野 蒼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

異界・天人録〜目指せ！ 楽園天国？〜

### 【Nコード】

N8497Z

### 【作者名】

紺野 蒼

### 【あらすじ】

遠い遠い、もしかの未来？

壊れかけた世界に溢れた異形に追いやられ、人間達は細々と生きていた。

そんな世界で、人間の中に生まれた異形の娘。

親に捨てられた娘は、異形を受け入れる村を探す旅に出る。

一話一話は短いです。ど素人の思いつき、行き当たりばったりの作品です。更新も遅いと思います。つまらなくても責任は持てませ

ん。それでも良い方のみ、御覧くださいませ。

天人録・序章（前書き）

思いつきで書いている拙いものです。

あまり攻めないでくださいーm(´`´)ーm

## 天人録・序章

昔話をしようか

・  
・  
・

世界には【豊か】が溢れていた。

水は透き通っていて、浄化せずとも飲めるほどに綺麗だった。  
大地は乾いていなくて、砂でも泥でもなくて、【肥沃な土】だった。

数百年も生きた【大木】が、沢山あった。 いやいや、何十本では足りない。 数百本、数千本、数万本もあった。 そう【森】があったんだ。

人は長生きで、誰もが【老人】になるまで生きた。 ああ、今年56歳の長老などより、もっともつと長く生きた。

なにより人間は、強かった。

世界のどんな獣より速く走る術すべがあり、どんな獣も倒せる術があった。 空ですら、どんな鳥よりも、一番早く飛べた。 そうそう、海にももちろん潜もぐれたとも。

そうして、自分達は何よりも偉えらいと思ひ込んだ人間は、世界を壊そうとし始めた。

なぜ、何のためにそんな事をしようとしたのかは、もう誰も知らない。

そうだね。世界を壊して困るのは、人間も同じはずなんだけれどね……。

もしかしたら、世界が無くても生きていけるほど強いと、人間は思ってしまったのかも知れないね。

やがて、もう少しで世界が壊れる所まで来た時、それは起こった。世界の悲鳴を聞いた救い手なのか、壊されたくない世界の抵抗なのか、ソレが何なのか、今も人間には分からないままだ。もしかしたら、ソレにすら、分かっていないかも知れない。

古のお伽話いにしえから。神代の伝説から。恐ろしい怪談話から。親から聞いた言い伝えから。書き伝えられた伝承から。

ソレらは闇から、溢れだした。

神とも、悪魔とも、妖怪とも、モンスターとも、呼び称される生き物達。

それは、妖しの者と呼ばれるようになった。

やがて世界に溢れた、妖しの者くに、人間は成す術なく追いやられ、荒れ果てた大地を、弱者となって逃げ惑う事になった。

それでも、世界は優しいようだ。

人間を滅ぼす事を良しとはしなかった。

今も私達が生きているのは、優しいモノ達が、人間の壊した世界を癒し、それを人間に分けてくれてるからだ。

緑を増やし、飲める水を作り、育む土を取り戻して、人間に住まわせてくれているんだ。

もちろん、今住んでいる、この場所も、ね。



天人録・序章（後書き）

誤字脱字など、お気づきの点がありましたら、ご一報ください。

## 逃げる

僅かに錆びた、今は点かない街灯。

嘗ては人の波や、車の途絶えた事などない交差点。

夜なお明るかった街は、今では幻のよう。

世界は闇を思い出していた。

・  
・  
・

不夜城と呼ばれた街、新宿。

もはや夜は平等に訪れ、闇が夜を彩る。

「や い…や っ！」

か細く、荒い呼吸が闇に溶ける。

闇のあちらこちらから見つめる瞳は、何の手も延ばさない。助けには成り得ない。

「っ！ クッ……」

喉にせり上がる嗚咽を堪えながら、ひたすら足を前に出す。

きっかけは、噂話。

不幸に溺れる存在を救い出して、豊かな緑を育む町がある。

> 妖しの者<と共に生きる、豊かな町がある。  
人と>妖しの者<は、その街では平等である。

その噂話は、過去には不夜城と呼ばれていた、【日の国】の都心と言われた、【シンジユク】で囁かれていた。

嘘ばかり！ やっぱしっ、信じちゃダメだったんだよ！！

涙を堪えながら、闇の中を駈ける娘が、唇を噛む。

人よりも速さも小回りも利く足でも、>妖しの者<と呼ばれる異形には敵わない。

「その…足置いて…け……」

「指 置いてけ」

「目の玉…：ケケッ」

娘の左右、後ろを、臃おぼろな黒い異形達が、囁きながら追ってくる。

「け…て。た、すけ ってー……」

か細すぎる声で求めても、誰にも届かない。

そもそも、この町で 否、この世界で助けを求めても、誰も自分の事など助けしてくれるはずもないと、娘の眼に滲んでいた涙がこぼれた。

娘は>取り換えっ子<と呼ばれる者だから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8497z/>

---

異界・天人録～目指せ！ 楽園天国？～

2011年12月26日22時09分発行